

第40回 平成23年

新潟県指定無形民俗文化財

三条かぐら鑑賞会

日時 10月2日(日)午後0時45分開演

会場 三条市中央公民館大ホール



三 条 市
三条神楽保存会

プログラム

- | | | | |
|---|------------|--------------|-------|
| 1 | 開会のことば | 三条神楽保存会会長 | 横山 弘 |
| 2 | 主催者あいさつ | 三条市長 | 國定 勇人 |
| 3 | かぐらの演舞 | (解説) 神明宮禰宜 | 三上 正行 |
| | (1) 先稚児の舞 | 田 島 | 諏訪神社 |
| | (2) 鎮護鉾の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| | (3) 乙女舞 | 保 内 | 小布勢神社 |
| | (4) 深山錦の舞 | 一ノ木戸 | 神明宮 |
| | (5) 久奈戸の舞 | 大 崎 | 中山神社 |
| | (6) 五行の舞 | 田 島 | 諏訪神社 |
| | (7) 五穀散の舞 | 三 条 | 八幡宮 |
| | (8) 五ツ刀の舞 | 大 崎 | 中山神社 |
| | (9) 稲田宮の舞 | 一ノ木戸 | 神明宮 |
| | (10) 太平楽の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| | (11) 末広の舞 | 保 内 | 小布勢神社 |
| | (12) 神勇の舞 | 大 崎 | 中山神社 |
| | (13) 四神の舞 | 三 条 | 八幡宮 |
| | (14) 三座返の舞 | 保 内 | 小布勢神社 |
| | (15) 杵樹の舞 | 一ノ木戸 | 神明宮 |
| | (16) 奉幣の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| 4 | 閉会のことば | 三条市市民部生涯学習課長 | 金子 正典 |

1 ^{さきちご}先稚児の舞

田 島 諏訪神社

神楽の最初に舞う稚児舞です。舞は二人のときと一人で舞うときとありますが、一人舞のことが多くあります。神々の大前で静かに祈りを捧げるものです。

春、夏、秋、冬の今様が楽屋で歌われます。今様とは、平安時代末の歌曲の総称です。

【囃子】先稚児拍子 【装束】天冠・狩衣 【採物】鈴・扇

2 ^{ちんごほこ}鎮護鉦の舞

塚野目 白山神社

イザナギ・イザナミの二神が天の浮橋に立たれ、天の沼矛で滄海をかきまわし、矛を引きあげた時、矛先からしたたり落ちた潮がかたまってオノノコロ島に天の御柱立てられ、御柱を廻りながら夫婦の契りを結び、次々に日本の島々をお生みになったと伝えられています。

【囃子】大満 【装束】黒毛頭・千早・大口 【面】鎮護鉦面(阿吽) 【採物】短鉦云



3 ^{おとめ}乙女舞

保 内 小布勢神社

4人の稚児舞です。神代より宮中で舞われてきたもので、乙女たちが大神の大前に、神心安かれと舞ったと伝えられています。

【囃子】乙女拍子 【装束】天冠・狩衣・切袴 【採物】楯

4 ^{みやまにしき}深山錦の舞

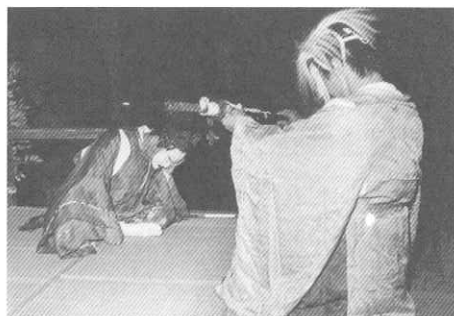
一ノ木戸 神明宮

伶人四人、稚児二人によって行われる舞です。平維茂が信州戸隠山に紅葉見物に行ったとき、鬼神にあい、これを退治したという物語によるものです。

能の「紅葉狩」と同一の物語といわれています。

【囃子】中満 立ちまわり羽返拍子 【装束】

惟茂一立烏帽子・狩衣・差貫、姫一女鬘・狩衣・差貫、槌命鬼神一大狩衣・大口、



神使一宝剣作に同じ 【面】惟茂一將軍面、姫一深山錦面、鬼神一ハンニャ面、
神使一白翁面 【採物】惟茂一弓・矢、姫一扇、鬼神一榊の枝、神使一劍、稚児
一三宝・瓶子・土器

5 久奈戸の舞

伊邪那美尊^{いざなみのみこと}が数々の神々をお生みなされ、最後に火の神をお生みになった時、大火傷を負われ、亡くなられました。夫の伊邪那岐尊^{いざなぎのみこと}が「黄泉国の私の所に来てはいけません」という伊邪那美尊の言葉を忘れ、見るに耐えな
い女神の姿をご覧になり、黄泉醜女^{よみしづこめ}に追われました。

この舞は、伊邪那岐尊が黄泉平坂まで逃げ、桃の枝を折り、実を投げて難をのがれた様子を模したものです。

【囃子】彦だけの時は「シヤギリ」、久奈戸神が加わると「大満」 【装束】彦一毛頭・千早・立付袴、久奈戸神一大毛頭・大狩衣・大口 【面】彦一彦面、久奈戸神一悪魔掃面 【採物】彦一劍、久奈戸神一桃の枝又は榊の枝

大崎 中山神社



6 五行の舞

田島 諏訪神社

この舞は、他県では「国堅め」といって五色の幣をもって舞っていますが、三条では神代より五つの誓、即ち仁・義・礼・智・信、これを五つの宝珠に現わし、人倫の道を教え、天下太平、世の安泰を祈る舞だといわれています。

【囃子】五行拍子 【装束】伶人一女鬘・狩衣・口細袴、稚児一先細烏帽子・狩衣・差貫袴 【面】天川面 【採物】伶人一三宝・黄の宝珠・鈴・舞扇

7 五穀散の舞

農業の神である倉稻魂命^{うらのみたまのみこと}が農夫に五穀の種を授ける舞で、倉稻魂命と農夫二人（彦）の三人によって舞われる。

倉稻魂命は稻荷神社の祭神です。

【囃子】彦のみの時は「シヤギリ」、命の出ている時は「榊拍子」 【装束】命一立烏帽子又は風折れ烏帽子・金欄狩衣・切袴、彦一千早・立付袴・襷がけ 【面】命一翁、彦一彦面 【採物】命一三宝・鈴、彦一鍬・鎌

三条 八幡宮



8 ^{いつつかたな} 五ツ刀の舞

大崎 中山神社

四神が剣をもって天地四方をかためる舞とされています。四神とは、青竜（東）・白虎（西）・朱雀（南）・玄武（北）の四方を守る神をいいます。「四神の舞」は稚児4人が、探り物を鉾で舞ますが、この「五ツ刀の舞」は剣で舞います。「地割」と呼称すると所もあります。

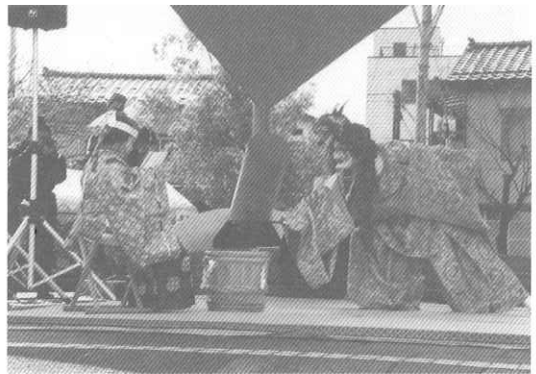
【囃子】大満 【装束】金冠 【採物】剣・鈴

9 ^{いなだみや} 稲田宮の舞

一ノ木戸 神明宮

伶人六人と稚児一人の舞です。

天照大神の弟、須佐之男命は乱暴者で、高天原から追放され出雲の国の簸の川上の鳥上の地にお降りになった。川上で足名椎、手名椎老夫婦が八人目の娘の櫛名田比売までも八俣大蛇に食べられるので、退治して欲しいと頼まれた。退治した後は、妻としてもらえる舞です。



又、大蛇の尾から出た太刀（^{あまのむらくものつるぎ}天叢雲劍）

を天照大神に献上し、三種の神器の一つである草薙劍といわれています。

【囃子】大満、大蛇拍子 【装束】翁—風折烏帽子・狩衣・切袴、媼—白髪・差貫袴・打掛、娘—天冠・稚児衣装、命—古代帽・法衣・差貫袴・白脚絆、大蛇—大毛頭・龍頭・金襴・大狩衣・金襴大口、彦—彦装束 【面】翁—足名椎面、媼—手名椎面、娘—なし、命—須佐之男面、大蛇—大蛇面、彦—彦面 【採物】翁—扇又は笏、媼—扇と鈴、娘—中啓又は扇、命—笏と巻物、大蛇—劍、小道具—樽・床机

10 ^{たいへいらく} 太平楽の舞

塚野目 白山神社

天の岩戸の変の時、^{いしこりどめのみこと}岩凝姥 命 が天の金山の^{やたのかがみ}鍬で八咫鏡 を造り、その完成を祝ったという故実による舞です。

この舞は別名が多く、「鏡づくり」「盆舞」「日月」などの呼び方があります。

「鏡づくり」は、^{やたのかがみ}八咫鏡 を作ったということから、「盆舞」は、採物が盆であることから。「日月」は二枚の盆を日と月にみたててこの名があります。

【囃子】シヤギリ 【装束】毛頭・千早・立付 【面】彦面 【採物】丸盆二枚

1 1 ^{すえひろ}末広の舞

保内 小布勢神社

稚児の四人舞です。伊勢の五十鈴の宮の大前で、千代に八千代に末広く、国栄えよと祈りをこめて舞われる舞です。

末広とは扇のことで、扇のその形から、次第に栄えてゆく意味をもつ「末広」という別名がつけられています。

国の弥栄と、氏子崇敬者の人等の幸が末広りになるように祈り舞うものです。

【難子】末広拍子 【装束】立烏帽子・狩衣・差貫袴 【採物】扇一本

1 2 ^{かみいさみ}神勇の舞

大崎 中山神社

神の喜び舞われる姿を表現し、神の勇みを現わしたものといわれている一人舞です。

湯立神事の際とくに舞われるしきたりになっています。

【囃子】大満 【装束】狩衣・切袴・黒毛頭 【面】奉幣面 【採物】剣・鈴



1 3 ^{しじん}四神の舞

三条 八幡宮

稚児4人による舞で、葦原の中つ国を四神の鉾でかため、安泰を祈る意味の舞とされています。

四神とは、四の方角を守る神で、東は青竜、西は白虎、南は朱雀、北は玄武といい、それぞれの方角の守護にあたっています。

四神を描いた旗を四神旗といい、朝廷では、即位礼の時や元日朝賀の折に四神旗を鉾に結んで大極殿、紫宸殿の庭に立てられたこれを「四神鉾」といいます。

【囃子】四神拍手 【装束】舟型烏帽子・狩衣・大口・襷 【採物】鉾

1 4 ^{さんざがえし}三座返の舞

保内 小布勢神社

神輿の渡御に先立ち、御神霊を神輿にお移しし、出発のとき神輿の前で舞い、無事にお帰りになるように祈る舞です。

神輿渡御の際は素面で舞いますが、宵祭りのときは面をつけます。

【囃子】大満 【装束】狩衣・差貫袴 【採物】鈴・扇



15 杵樹の舞 ぞうぎ

一ノ木戸 神明宮

二人で舞います。中津国の荒ぶる神たちを鎮めるべく、弓矢を持つ武甕槌命たけみかづきのかみが天下り、火の神迦具土命かぐつちのかみと協力して中津国の安泰をはかったことにもとづく、天長地久四方泰平を祈る舞いです。

弓矢は武力による邪悪の平定を意味し、杵と飯しゃもじは、食を充分に与えて民の生活を豊かにすることをあらわしています。

【囃子】三拍子、しゃぎり 【装束】武甕槌命一立烏帽子・狩衣、迦具土命一彦姿
【面】武甕槌命一杵樹面、迦具土命一彦面 【採物】武甕槌命一弓・矢、迦具土命一杵・飯しゃもじ

16 奉幣の舞 ほうへい

塚野目 白山神社

天岩戸の変の折天香山の五百津真賢木い おつまさかさを根こぎにして、その下枝したえだに白和幣しろにぎてと

青和幣あおにぎてをかけたれ、天児屋根命あめのこやねのみことが、天照大神が岩戸からのお出ましを願う祝詞を奉上了した故実に基づく舞です。

なお、この舞は岩戸開きの舞の最後に舞われるものですが、これだけをとり出し、その日の舞列の最後に舞われています。

【囃子】羽返拍手 【装束】狩衣・切袴・立烏帽子 【面】奉幣面又は素面 【採物】鈴・幣



奉幣の舞



四神の舞

三 条 神 楽 の 由 来

三条神楽は、出雲神楽系統に属する神楽です。出雲神楽は、岩戸開き神話を中心とし、その他古くから出雲大社に伝わる神事や、神社の縁起を新たに取り入れ演じられた神楽です。その出雲流の神楽が、山陰から北陸を経て三条の地に伝えられたものと考えられます。

江戸時代の文化8年（1811）には、三条（八幡宮）で神楽が舞われていたことが、古記録に残っていることから、その起源はさらに遡るものとみられます。

ふつう5舞か7舞を伝えるものが多いなかで、三条神楽は32舞も保存されていて、たいへん珍しいため、昭和38年3月、県の無形民俗文化財に指定されました。

このようにすぐれた郷土芸能を、広く市民のみなさんから知っていただき、後世に伝えるため、三条市および三条神楽保存会では、後継者の育成に努めています。研修会や講習会などをとおして研鑽を重ねる一方、ビデオや映画に収録したり、本にまとめたりして、当市の伝統芸能の保存をすすめています。

新 潟 県 指 定
無 形 民 俗 文 化 財

三 条 神 楽 3 2 舞 の 演 目

1 先稚児の舞	9 鳥形の舞	17 天川の舞	25 杵樹の舞
2 宮清の舞	10 羽返の舞	18 奉幣の舞	26 宝剣作の舞
3 悪魔祓の舞	11 岩戸開の舞	19 小弓遊の舞	27 深山錦の舞
4 鎮護鉾の舞	12 地久楽の舞	20 四神の舞	28 神勇の舞
5 久奈戸の舞	13 稲田宮の舞	21 五行の舞	29 五ツ刀の舞
6 五穀撒の舞	14 榊の舞	22 大鉾の舞	30 三座返の舞
7 五穀捧の舞	15 花献の舞	23 天孫降臨の舞	31 宮司舞
8 太平楽の舞	16 福神遊の舞	24 末広の舞	32 乙女舞

来年度は、今年演舞できなかつたもの をすべて演じます。